

最新！宗教情報 ////////////////////////////////////// No. 1

◎中国は米務省の「宗教の自由」報告書に強い不満

【C J C = 東京、9/29】中国政府は、米務省が9月19日発表した、各国の宗教の自由に関する2008年版報告書で、侵害が特に深刻な国として中国など8カ国を昨年到现在に指定したことに反発している。「中国は強い不満を持ち、断固、米国の非難に反対する」と外務省の姜瑜報道官は23日の声明で明らかにした。国営新華社通信が報じた。

米務省の報告書は、中国について、8月の北京五輪期間中、当局が政府非公認の「地下教会」を閉鎖させたり、数人の外国人活動家を「違法な宗教活動をした」などとして拘束、ビザを取り消したりしたと報じられていることを指摘した。またこの1年で、チベット自治区や新疆ウイグル自治区の弾圧が強まり、3月にチベット自治区で起きた大規模暴動をきっかけにチベット仏教最高指導者ダライ・ラマ十四世への批判が強化されていると指摘。寺院閉鎖、チベット仏教僧への愛国教育、追放などの弾圧にも言及した。キリスト教の伝道に対する干渉にも触れている。

◎ドイツでプロテスタント教会がユダヤ教礼拝堂に

【ユトレヒト（オランダ）=ENI・C J C、9/29】（アンドレアス・ハビンガ記）ドイツで初めて、プロテスタント教会がユダヤ教礼拝堂に衣替えした。

ドイツ北部ノルトライン＝ヴェストファーレン州ビーレフェルトで9月21日、「バイト・ティクワ」（希望の家）と言う名のユダヤ教礼拝堂の献堂が行われた。

ヴェストファーレン福音教会のアルフレッド・バス牧師は、新礼拝所がプロテスタント・キリスト者のための「希望の家」でもあると挨拶した。

ビーレフェルトのかつてのユダヤ教礼拝堂は、1938年11月9日、ナチがドイツ全土でユダヤ教礼拝堂などユダヤ人の住宅、店舗などを襲撃した「クリスタルナハト」と呼ばれた事件の際に破壊された。バス牧師は「悲しみと深い恥」をもってそれを想起した。

600万人ものユダヤ人が殺されたとされる「ホロコースト」の時に、ヴェストファーレン福音教会はそれに直面することをしなかった、としてバス牧師は、かつてのプロテスタント教会がユダヤ教礼拝堂に転換したことの意味がますます深まる、と言う。

ドイツ・ユダヤ人中央協議会のシャルロッテ・ノブロック委員長は、新しいユダヤ教礼拝堂が「ビーレフェルトのユダヤ人生活の再生」を示すもの、と評価した。

ビーレフェルトのユダヤ教徒は約300人。ノルトライン＝ヴェストファーレン州には礼拝堂が19カ所あり、信徒総数3万2000。

ビーレフェルトの礼拝堂はこれまでのものが手狭になり、昨年パウル・ゲルハルト教会を購入した。改修費用は280万ユーロ（約4億3000万円）。改修には州とビーレフェルト市の財政支援があった。

現代神学の時代背景 —— ドイツ教会闘争

「十字架」(Kreuz)と「鉤十字」(Hakenkreuz)
の間に置かれた教会

ナチス政権成立時(1933年)の宗教状況

- ・ 総人口の95%がキリスト教徒 (現在2/3)
- ・ プロテスタント:カトリック=2:1 (現在1:1)
- ・ プロテスタント教会
 - ルター派、改革派、合同教会(古プロイセン合同教会)、自由教会(バプテスト、メソヂスト等)
- ・ ドイツ福音主義教会連盟
 - ルター派、改革派、合同教会
 - 28の領邦教会(Landeskirche)

2

1933年におけるナチスと教会の関係

- ・ ヒトラー
 - 「国民政府はキリスト教の両宗派にわが民族保持のための最も重要な要素を見出す。政府は両宗派と諸領邦との間に結ばれた政教条約を尊重するであろう。両宗派の権利は侵害されてはならない。」
- ・ ドイツ福音主義教会同盟 理事会
 - 「一つの強力な民族運動がわが国民をつかみ、立ち上がらせた。…この歴史的転換に対して我々は感謝の『しかり』を発する。それをわれらに送り給うた神に栄光あれ！」

3

ナチスの教会政策

- ・ ヒトラーの世界観
 - ヒトラーは、カトリックの幼児洗礼を受けている。
 - この世を善と悪、光と闇が戦う場所と見なす、徹底した二元論的世界観を持つ。
 - 「人種問題が世界史を解くカギであるのみならず、人間文化そのものを解くカギである。」
 - 光: 北方(ゲルマン)人種 ← 闇: ユダヤ人
- ・ 帝国教会の創設
 - 教会を国家に同質化することを目指した。
 - 「ドイツ的キリスト者信仰運動」の利用。

4

ドイツ的キリスト者 (Deutsche Christen)

- ・ ナチスが選挙で躍進した1930年頃から始まった運動。
- ・ ドイツ的キリスト者信仰運動の基本原則(1932年)
 - 領邦教會的分裂を克服し、一つの福音主義的帝国教会を創設する。
 - ユダヤ人はキリスト者の共同体に所属しない。
 - 人種・民族・国民は神から与えられた生の秩序であり、人種の混合に反対する。
 - 無能者、低価値者に対抗して民族を守る。
 - 世界市民主義・平和主義・国際主義を排する。

5

牧師緊急同盟

- ・ 1933年におけるドイツ的キリスト者の躍進
 - ドイツ的キリスト者が全国の教会選挙の結果、多数派を占めるようになる。
 - ルートヴィヒ・ミュラーを帝国教会監督に選出する。
- ・ 牧師緊急同盟の結成(1933年)
 - 「**アーリア条項**」(ユダヤ人排除政策)の教会への導入に抗議し、マルティン・ニーメラーが中心になって結成。

6

バルメン会議

- ・ **バルメン会議**
 - 1934年5月29～31日、ルール工業地帯ブッパターールのバルメン＝ゲマルケ教会で第1回全国告白教会 (**Bekennende Kirche**) 総会 (バルメン会議) が開催された。
- ・ **バルメン宣言**
 - カール・バルトらによって起草された六つの命題。

7

バルメン宣言(1)

- ・ **第一命題**
 - 「聖書において我々に証しされているイエス・キリストは、我々が聞くべき、また我々が生と死において服従すべき唯一の御言葉である。教会がその宣教の源として、神のこの唯一の言葉のほかにも、またそれと並んで、さらに他の出来事や力、現象や真理を、神の啓示として承認しようとかが、承認しなければならないという誤った教えを、我々は退ける。」

8

バルメン宣言(2)

- ・ **第五命題**
 - 「…**国家**がその特別な委託をこえて、人間生活の唯一にして全体的な秩序となり、従って教会の使命をも果たすべきであるとか、そのようなことが可能であるとかいうような誤った教えを、我々は退ける。教会がその特別な委託をこえて、**国家的性格、国家的課題、国家的価値**を獲得し、そのことによって自ら国家の一機関となるべきであるとか、そのようなことが可能であるとかいうような誤った教えを、我々は退ける。」

9

ヒトラー宛建白書(1)

- ・ 1936年、告白教会全国評議会がヒトラーに建白書 (7章) を提出。
- ・ **第一章**
 - 「ナチス世界観は、克服されるべきキリスト教に積極的にとつてかわるものとしてしばしば提示され、主張されています。そこでは、血、民族性、人種、名誉に永遠的価値が与えられています。しかし福音主義のキリスト者は**第一戒**によってそのような価値づけを拒むように義務づけられています。またナチスの世界観においてはアーリア人種が賛美されていますが、神の言葉はすべての人間の罪性を証言しています。ナチスの世界観においてはユダヤ人への憎しみを義務づける**反ユダヤ主義**が命じられています。しかしキリスト者にとっては隣人愛というキリスト教的戒めが立てられているのです。」

10

ヒトラー宛建白書(2)

- ・ **第七章**
 - 「わが民族は神によって置かれた限界を突き破ろうとしています。すなわちわが民族は自己をすべての事柄の尺度にしようとしています。これは神に反抗して決起した人間の不遜であります。この関連で、神にのみふさわしい形式でしばしば総統に名誉が与えられているという事態に、私たちは憂慮を表明せざるをえません。今日では…総統自身が**民族司祭**という、まさに神と民族とを仲介する者としての宗教的威厳を与えられているのです。」

11

当時の神学の潮流

- ・ **創造の秩序 (Schöpfungsordnung) の神学**
 - 家族・民族・国家こそ神によって創造された特別の秩序だとされた。例: P. アルトハウス
- ・ **自由主義神学**
 - 人間の文化的・道徳的進歩とキリスト教信仰の調和を重視した。例: A. フォン・ハルナック、E. トレルチ
- ・ **弁証法神学**
 - 神と人間との間の絶対的な断絶を強調。例: K. バルト、F. ゴーガルテン

12